

2 田住桶川遺跡における近世墓の様相

田住桶川遺跡において検出された近世墓は総数21基を数える(第116図)。これらをその分布状況からA、Bの2群に分けた。またここでは墓墳形態などから以下のように分類する。

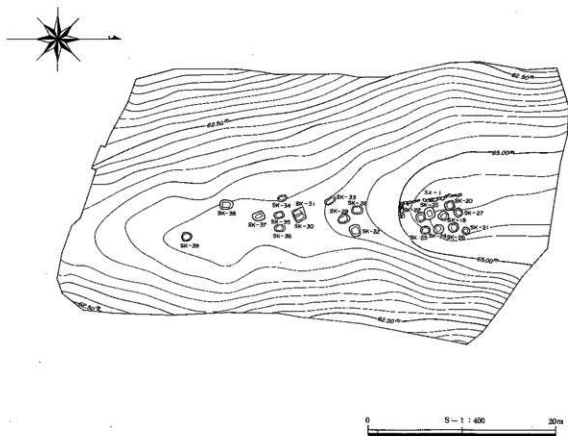
平面形態；I類-長方形、II類-方形、III類-円形

底面施設；1類-あり、2類-なし

墓標；a類-大礫、b類-人頭大礫、c類-石塔、d類-なし

・埋葬施設について

I-1類は5基(SK-34~38)確認できた。a、c類はなく、SK-35、38がb類、他はd類に属す。SK-35の断面(第80図)をみると、北壁に僅かに段が形成され、その段から下には第2層が堆積、直上には包丁(263)がのっている。これは床より12cmほど高い位置にあり、北壁にみられる段との関係からしてこの高さに板が敷かれていたのであろう。SK-37、38では南北壁の礎に壁と並行に溝が掘られ、底面を南北方向に掘り窪めているが、こうしたものも底板の痕跡ではなかろうか。そしてこれらは遺体が直接土に触れないよう配慮された施設と考えられる。またSK-34は底面北側に礫を1個置く。そして掘鉢が内面を下にして南壁側にある。この出土状況から掘鉢は遺体の顔の上に被せられたものではないかと思われる。こうした埋葬方法をとるのは死亡に際し特殊な事情があったものである可能性をもつ(註1)。底面施設に底板ではなく、礫を置く構造も特異である。I-2類は8基ある。a類は2基あり、SK-25は出土した人骨が解剖学的位置を保っておらず、再葬墓である可能性が考えられる。もう1例(SK-21)もその規模から再葬墓、あるいは幼児墓であったと推測される。c類も2基あり、SK-29からは正坐位で埋葬された熟年から老年の男性人骨が出土した。この人骨は上半身が前方へ倒れており、これは墓墳がすべて埋まる前に墓墳内に空間があったことを意味する。すなわち棺桶に入れられていたものであり、墓墳形態から坐棺と考えられる。またSK-28もSK-29と同規模をもつことから、同じ埋



第116図 田住桶川遺跡近世墓遺構配置図

墓墳 番号	形態分類	葬法	性年 別齢	鏡	煙 管	鉄	毛 筵	その他	釘	時期	備 考
19	Ⅲ-2-a	早桶	?A		2		1	針1		18c後	
20	Ⅱ-2-a	坐棺									
21	I-2-a										
22	Ⅱ-2-a	坐棺	?A								
23	Ⅱ-2-a	坐棺	FA	3		1	1		2	1739～	頭陀袋に副葬品
24	Ⅲ-2-a	早桶	MA	2				皿1		1741～	上師質皿
25	I-2-a	再葬?	Ma	1	1	1	1			18c後	頭陀袋、コウヤマキ加工材
26	Ⅱ-2-a	坐棺	?A				1		2		
27	Ⅲ-2-a	早桶	?C	10	1		1		1	18c後	
28	I-2-c									1716	『国祿ノ父』※
29	I-2-c	坐棺?	MO							1736	『反原村住人』※
30	I-2-d										
31	I-2-d	再葬?	?A								墓墳内に礎を積む
32	Ⅱ 2-c	坐棺	FA			1				35	
33	I-2-d										
34	I-1-d							播鉢1		18c初	墓墳内に礎を置く
35	I-1-b							包丁1			
36	I-1-d		?a	2	1			櫛1		18c前	底面窪ませる
37	I-1-d										底面窪ませる
38	I-1-b			5							底面窪ませる 金具?
39	I-2-d										

19～27はA群、28～39はB群。

人骨の年齢、性別はC；小児、A；壮年～熟年、O；老年、a；成人、M；男性、F；女性で表記。
副葬品などはそれぞれ数量を記載。時期の中で「～」のあるものは該の初葬年代を表す。

※は過去帳に記載されていたもの。

表1 近世墓一覧表

葬形態を採っていたと推測される。d類に属するものは4例ある。SK-31は墓城南に礎を2個積み重ね、北半分には人骨を置き、その上を覆うように1個の礎がある。この在り方は、墓墳上に置いた大礎が墓墳内に落ち込んだとは考えにくい。また頭蓋骨のみが出土したことから、再葬である可能性が指摘できよう。なおb類のものは検出されなかった。

次にⅡ類をみると、1類はなく5例とも2類に属する。すべて坐棺に遺体を入れ、埋葬されたものである。a類のものはいずれもA群にあり、B群にはc類のSK-32の1例しかない。墓墳上に人頭大の礎が置かれていたが、これはSK-28、29で検出された石塔を固定するために敷かれたものと類似し、この墓墳にも石塔がのっていた可能性が考えられる。225(第77図)はその破片が。

Ⅲ類は2-a類のみであり、すべてA群に分布する。これらは遺体を早桶に入れ埋葬されたものである。

人骨の遺存状況をもとめるとA群9基中7基、B群では12基中4基しか遺存していない。仮に、再葬と考えられるSK-25、31を除くと、A群75%の遺存率に対し、B群は27%しかない。A群の葬法をみると坐棺、あるいは早桶に入れられ葬られたと想定される。またB群で遺存しているもの3基の内2基は、やはり坐棺に収められてい

た。ここから棺桶に埋葬されたものは人骨の遺存もよいことが窺える。その一方で遺存していないものは、直葬であった可能性があり、I-1類は底板や椀の上に直接遺体を安置したと考えられそうである。これらから釘が1点も出土していないことも重要である。

・副葬品について

次に副葬品を取り上げる。A・B群のどちらにもみられるものは銅銭、煙管、そして鉄である。鉄をもつのはB群ではSK-32のみであり、SK-36は銅銭と煙管、さらに木製の櫛が副葬される。銅銭は1636年初鈔の古寛永通宝と、1668年の文銭があるが、煙管はその型式編年から18世紀の前半と判明(註2)し、この墓墳の大まかな年代がわかった。

A群は毛抜きを副葬するものが5例と最も多く、次いで銭(4例)、煙管(3例)と鉄(2例)となっている。SK-23では毛抜き、鉄、銭(176~178)の3点が接着していて、これらは仰臥坐位をとる人骨の頭蓋骨の下、腹部に当たると思われるところから出土した。また鉄と毛抜きには布の痕が残っており、こうした状況からこれらは頭陀袋に入れられ、被葬者の首にかけられたものであったことがわかった。同じ様に鉄と毛抜きが接着し、そこに布の痕跡をもつものはSK-25にもある。ここからは他に煙管と銅銭も出土した。しかし、この被葬者は解剖学的位置を保っていないため再葬と考えられる。これら遺物は最初に葬られたとき、頭陀袋に入れ首からかけられていたものであった。そして骨などとともに積み集め、埋葬し直したであろうことは棺材と思われるコウヤマキの加工材が出土していることから想像される。

死に対しては死出の旅立ちという観念があり、死者には旅装束をさせる。そして副葬品は二途の川の渡し賃である六道銭や、生前の愛用品を頭陀袋にいれてもたせると従来解釈されてきている。確かにA群の副葬品をみると、銭、煙管、鉄、毛抜きという4点はSK-25で纏まって出土していることから、ひとつのセットと考えられる。しかしSK-27では小児を埋葬した墓であるにもかかわらず煙管が副葬されていることから、これらセットは愛用品というよりも死への旅立ちにあたって、死者にもたせる定型化したトラベル・セットであると考えられる。

米子市陰田第6遺跡でも、18~19世紀末の墓が38基みつかった(註3)。これらは陰田・日御埴神社の神主であった豊田家に係わるものといわれ、墓から出土した副葬品をみても陶磁器や鏡などの品があり、同時期の農村部である田住柳川遺跡のものとの格差は大きい。しかし、ここでトラベル・セットとして挙げた4点は共通してみられ、11基から出土していることから同じような意識があったものと思われる。またここでは男女における差もみられず、年齢・性別に係わらずこのセットが普遍性をもつものであったのだろう。

銅銭の出土状況についてはSK-27からは10枚、SK-38では5枚もの銅銭が接着してみつかった。鉄などと接着した例もあり、これらは頭陀袋に入れられていたのであろう。ただ本遺跡では確認できなかったが、銅銭の穴に紐を通し首から下げていたと推定される例もあり(註4)、今後その出土状況に注意する必要がある。溝口町大坂では六文銭は頭陀袋に入れず穴に紐を通し、遺体の首にかけたという(註5)。

・墓制の変遷について

以上埋葬施設と副葬品について検討してきた。そこでこれらをまとめ、その変遷について触れることにする。

21基の近世墓が検出されたが、そのうち時期は石塔の年代、銭の初鈔年代、煙管の編年などから判断した。A群は銅銭と鉄銭の初鈔年代がそれぞれ1741、1739年であること、煙管の型式がいずれも18世紀の後半に比定できることから概ね18世紀後半に作られたもの、B群は二つの石塔の年代、挿鉢や煙管の年代から概ね18世紀の前半に相当するものと判定した。

さて年代の最もはっきりしているのは2基の石塔(I-2-c類)である。SK-28が1716年、SK-29は1736年。石塔の下には人頭大の礎が敷かれ、プランは長方形を呈す。石塔を除けばこれに類似するのはI-1-b類のSK-35、38である。しかしこの類は底面に底板を敷きその上に遺体をおいたもので、坐棺によって葬られたものではないと想像される。さらに坐棺がB群にあまりみられず、A群にあるように18世紀後半の主流となる葬法であることから、底板を敷くものはより古い墓制であると思われる。

時期	墓 塚 形 態		葬 法		副 葬 品	
17c後半						
18c前半	I-1-d	I-2-c	I-2-d	底板	坐棺	銭 煙管
		II-2-c				鉄
18c後半		II-2-a	III-2-a	I-2-a	早桶	毛拔
19c前半						

表2 墓制の変遷

石塔ののっていた可能性のあるものに、墓塚上面の礎の在り方からSK-32が挙げられる。これはまた石塔をもつ2基と近接していることから、それほど時期が離れたものではないだろう。しかし墓塚形態は方形(II類)を呈し、また副葬品に鉄をもつことは他のB群とは趣が異なり、A群のII類に非常に近いものといえる。これらを整理すると、

I-1類 → I-2-c類 → II-2-c類 → II-2-a類

(長方形、底面施設) (長方形、石塔) (方形、石塔) (方形、大礎)

という変遷が辿れそうである。つまり18世紀前半まで主流であった長方形のプランを呈し、直葬か底面に底板などを敷くものから18世紀後半になって棺桶に入れて埋葬する習慣が一般的になってきたといえる。

両群ともにみられたものに再葬墓がある。いずれもプランは長方形を呈すが、SK-31は墓塚上に墓標はなく、墓塚内に石積みをするのに対し、SK-25は墓塚上に大礎を置く。これが位置するSX-1(A群)においては再葬墓であっても大礎を墓塚上に置くという共通性を示している。この変化が時期差によるものかどうかは判断しかねる。

一方副葬品をみると、トラベル・セットはA群において確立しており、B群ではSK-36にみられるのみである。すなわち18世紀後半に確立したもので、前半代ではまだ一般的ではなかったことが窺える。陰田第6遺跡でも18世紀後半以降に比定される墓の副葬品にこのセットがあり、同時代に地域的な広がりがあったといえよう。

鳥取県において近世墓が纏まって検出された例は少なく、本遺跡の事例は貴重なものである。この墓が営まれた18世紀代は、会見郡において11件もの百姓一揆が起きている(註6)。こうした時代背景を探り、墓制の変遷を考えなければならない。今回各墓の葬法の差異の意味について言及し得なかったが、民俗事例や文献、また絵図の活用など様々な角度からアプローチしていく必要があるだろう。また、今回被葬者の埋葬部位や副葬品の出土位置や再葬の可能性など、解剖学の立場から極めて貴重な所見をいただいた。今後近世墓の調査においては、解剖学的調査は欠くべからざるものと提言したい。末尾ながら鳥取大学医学部教授井上寅次先生に深甚なる謝意を表す次第です。

註1 桜井準也「近世の鍋振り人骨の出土例とその民俗学的意義」『民族考古』第1号 1992年

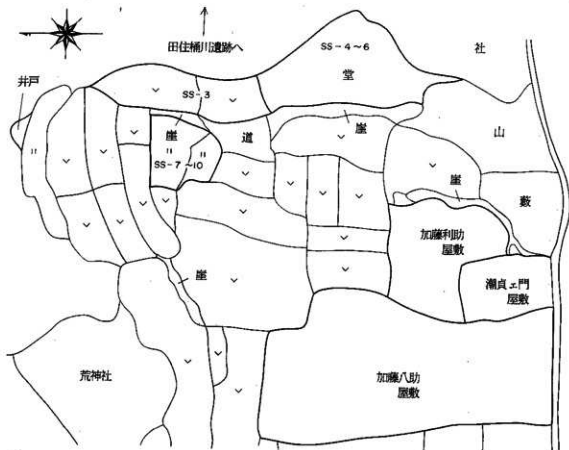
註2 古泉弘「江戸の街の出土遺物—その展望—」『季刊考古学』第13号 1985年

註3 『陰田』米子市教育委員会 1984年

註4 『平安京左京三条三坊十一町』古代学協会 1984年

註5 古賀達也「葬送と墓制」『日野川流域の民俗』坂田友宏編 1990年

註6 『会見町誌続編』会見町誌続編編さん企画委員会編 1995年



第117図 『文政六年會見郡住吉村地續繪圖面帳』抜粋【六 阿さ名 表屋敷】 道
 (上図—原本の写し、下図—上図の地目を整理したもの)

報告書抄録

ふりがな	こまちいしばしのかみいせき あさかねだいにいせき たすみおけがわいせき たすみだいほらいせき							
書名	小町石橋ノ上遺跡 朝金第2遺跡 田住桶川遺跡 田住第8遺跡							
副書名	県営西伯地区広域農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	II							
シリーズ名	鳥取県教育文化財調査報告書							
シリーズ番号	52							
編著者名	北浦弘人・中森祥・上田浩一・山崎裕子							
編集機関	財団法人 鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター							
所在地	〒680-01 鳥取県岩美郡国府町宮下1260 TEL0857-27-6711							
発行年月日	西暦 1997年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	町村	遺跡番号	°' "	°' "		m ²	
こまちいしばしのかみいせき 上	とっとりけんさいほうぐん 鳥取県西伯郡 岸本町字小町	31383	1-350	35°22' 04"	133°24' 27"	19960415 ～ 19960930	5,506	道路(西伯地区広域農道)整備に伴う事前調査
あさかねだいにいせき 朝金第2	とっとりけんさいほうぐん 鳥取県西伯郡 会見町字田住	31832	306	35°21' 45"	133°23' 01"	19960415 ～ 19960729	1,126	
たすみおけがわいせき 田住桶川	とっとりけんさいほうぐん 鳥取県西伯郡 会見町字田住	31832	446	35°21' 52"	133°22' 59"	19960701 ～ 19961213	1,313	
たすみだいほらいせき 田住第8	とっとりけんさいほうぐん 鳥取県西伯郡 会見町字田住	31832	365	35°21' 50"	133°22' 55"	19960701 ～ 19961213	2,201	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小町石橋ノ上	集落跡	古墳～奈良、近世	竪穴住居跡 3 溝 11 テラス状遺構 3 土坑 1 掘立柱建物 1 土塁 1 落とし穴 11	縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、竈、製塩土器、円筒埴輪、瓦、砥石、磁石、黒曜石刻片、鉄滓	
朝金第2	その他の遺跡 (土坑群)	弥生～近世	土坑 10	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器 土師質土器、陶磁器、近世墓石塔竿部 石斧	
田住桶川	その他の墓	弥生～古墳、近世	土墳墓 8 木棺墓 6 石棺墓 4 近世墓 21 近世墓基壇状石列 1	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、鉄刀、銅銭、鉄銭、釘、毛抜き、はさみ、煙管、針、包丁、桶 近世墓石塔竿部及び基部、人骨	吉備系 搬入土 器の出 土
出住第8	集落跡	近世	テラス状遺構 10 溝 7 井戸 2 土坑 4 土塁 1	弥生土器、須恵器、土師質土器、石臼 陶磁器、轆の羽口、鉄製吊、竹筒、瓦	

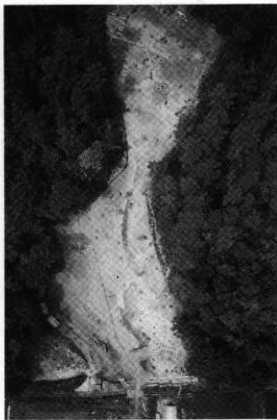
写 真 图 版



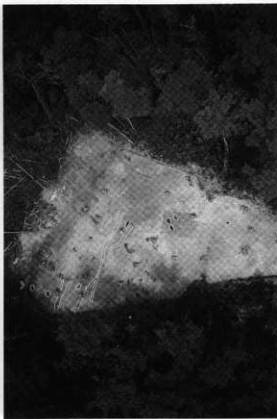
K I B ・調査前・南東から



K I B ・全景・南東から



K I B ・全景・北東から



K I B ・土壘状運構下層検出運構全景・南東から



K I B・土壘状遺構・北東から



K I B・SD-1、2、4、5・南西から



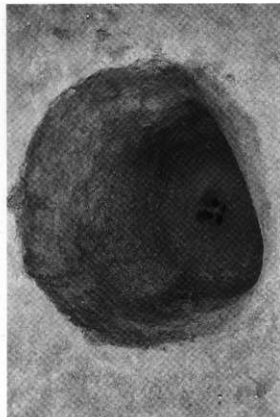
K I B・土壘状遺構・南西から



K I B・土壘状遺構土層断面・北から



K I B · S K - 3 · 北東から



K I B · S K - 5 · 東から



K I B · S K - 1 · 南東から



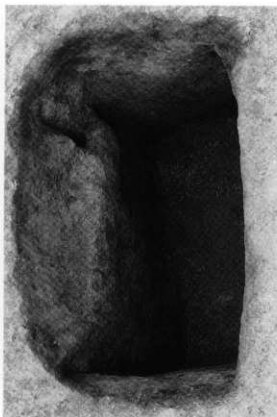
K I B · S K - 4 · 東から



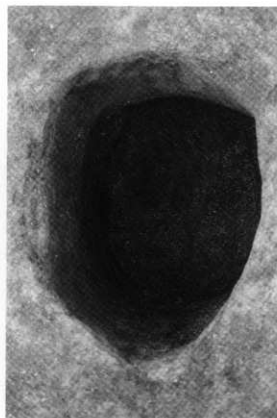
K I B ・ S K - 6 ・ 東から



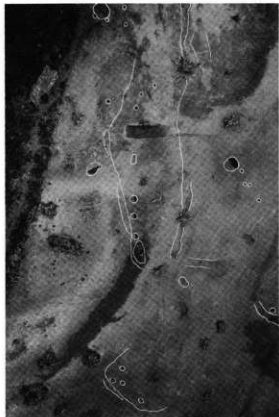
K I B ・ S K - 7 ・ 西から



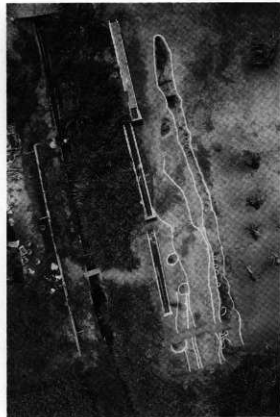
K I B ・ S K - 8 ・ 東から



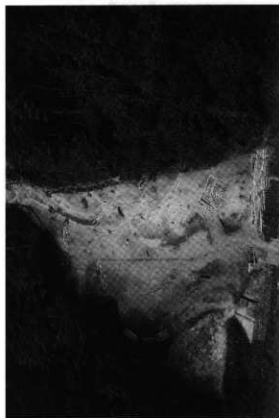
K I B ・ S K - 9 ・ 西から



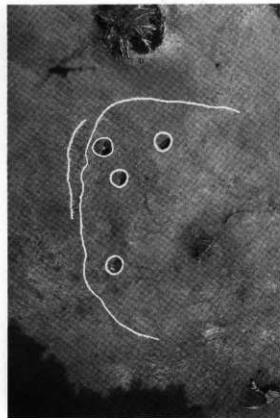
KIB・SS-1~3、SD-6、7・南東から



KIB・SD-8~10・北西から



KIB・尾根裾部全景・南東から



KIB・SS-2・南東から



K I B・SS-2・北から



K I B・SD-11・南から



K I B・SS-1・西から



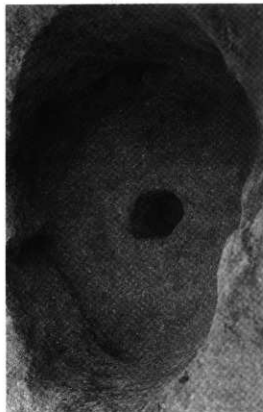
K I B・SD-8~10・南から



K I B・S K-12・西から



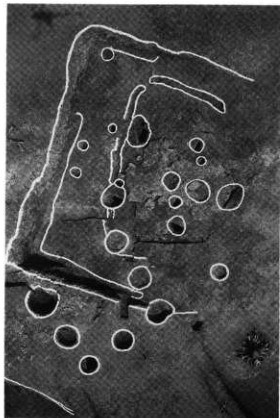
K I B・S B-1・東から



K I B・S K-11・北西から



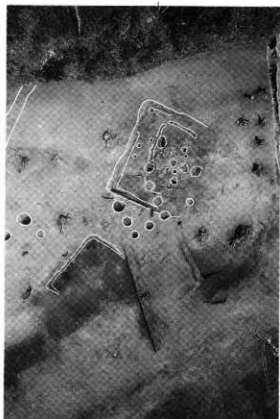
K I B・S K-10・南東から



KIB・SI-1、2・南東から



KIB・SI-1、2・北東から



KIB・SI-1~3・南東から



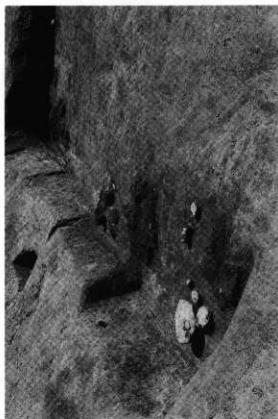
KIB・SI-1を覆うSI-2の貼り床・北から



K I B・S I - 3 遺物、炭化物検出状況・北から



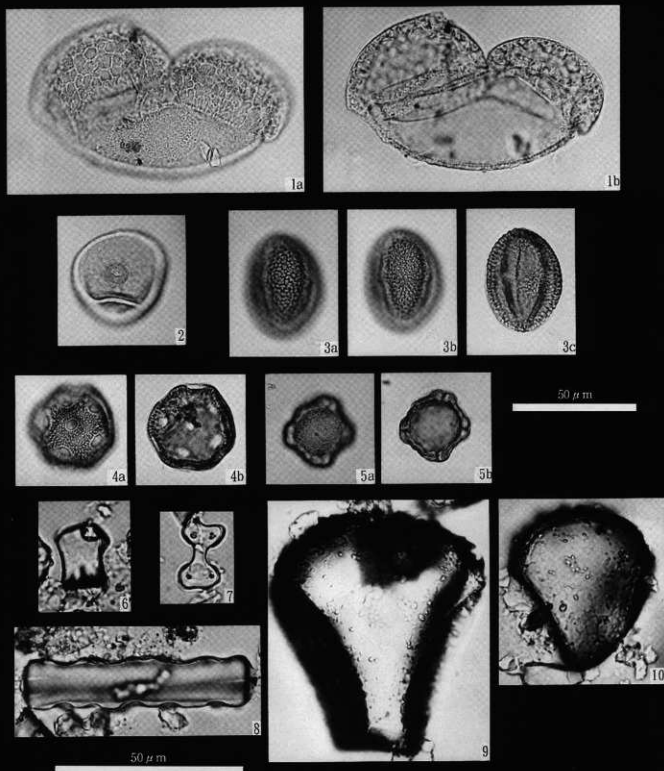
K I B・S I - 3・東から



K I B・S I - 3 遺物、炭化物検出状況・南西から



K I B・S I - 3・南から



- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. マツ属(SI01;13) | 2. イネ科(SI01;13) |
| 3. ツバ属(SI01;13) | 4. ナデシコ科(SI01;13) |
| 5. アリノトウグサ属(SI01;13) | 7. ススキ属短細胞珪酸体(C地点;9) |
| 6. タケ亜科短細胞珪酸体(C地点;9) | 9. タケ亜科機動細胞珪酸体(C地点;9) |
| 8. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(C地点;9) | 10. ウツクサ族機動細胞珪酸体(C地点;9) |



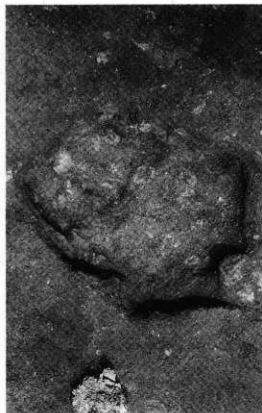
AG2・全景・北から



AG2・SK-2・東から



AG2・調査前・北から



AG2・SK-1・東から



AG2・SK-4・北東から



AG2・SK-7・北東から



AG2・SK-3・東から



AG2・SK-5、6・北東から



AG2・SK-9・北東から



AG2・作業風景



AG2・SK-8・北西から



AG2・SK-10・南東から



TSO・全景・東から



TSO・全景・東から



TSO・調査前・南から



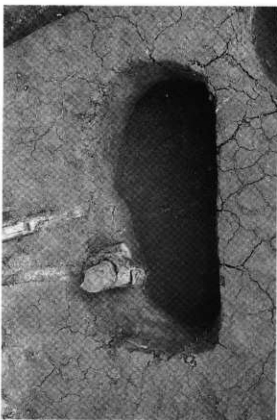
TSO・SK-2・北から



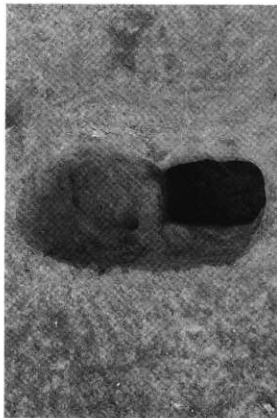
TSO・調査前・北から



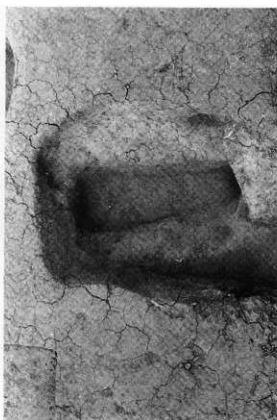
TSO・SK-1・北東から



TSO・SK-3・南から



TSO・SK-5・西から



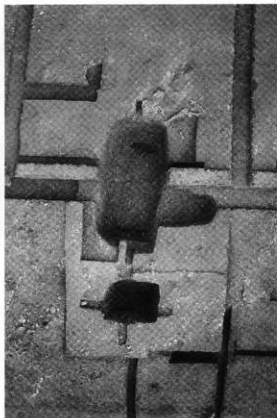
TSO・SK-6・東から



TSO・SK-8・東から



TSO・SK-10土層断面・南から



TSO・SK-11・南から



TSO・SK-10・南から



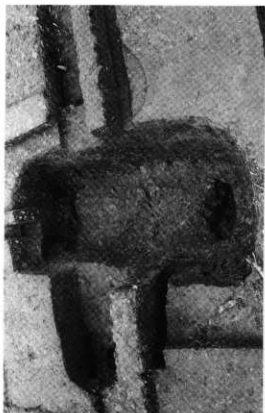
TSO・SK-9・西から



TSO・SK-11土層断面・西から



TSO・SK-12・西から



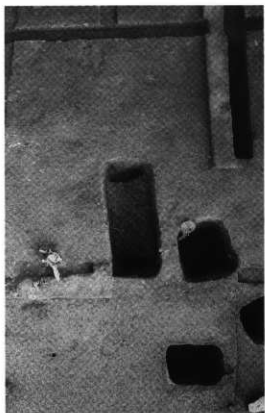
TSO・SK-11・東から



TSO・SK-12・北から



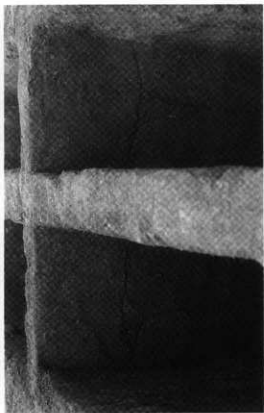
TSO・SK-12土層断面・東から



TSO・SK-13・北から



TSO・SK-13・西から



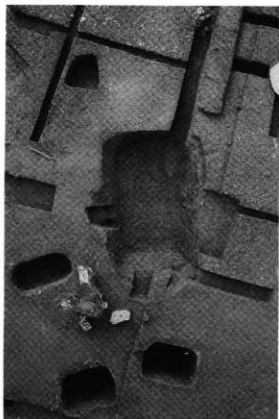
TSO・SK-13土層断面・東から



TSO・SK-14・西から



TSO・土壌墓の配置・東から



TSO・SK-14・北から



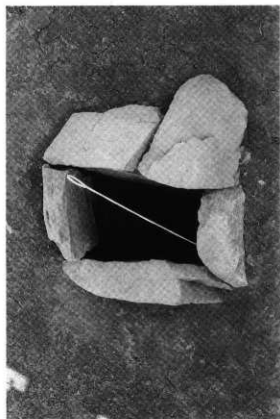
TSO・SK-14土壌断面・東から



TSO・SK-16検出状況・南から



TSO・SK-16鉄刀(166)出土状況・南から



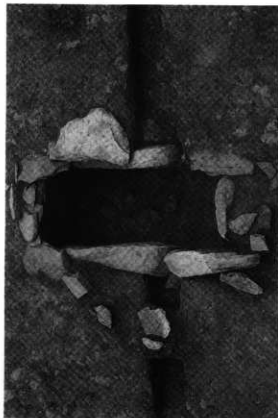
TSO・SK-15・南から



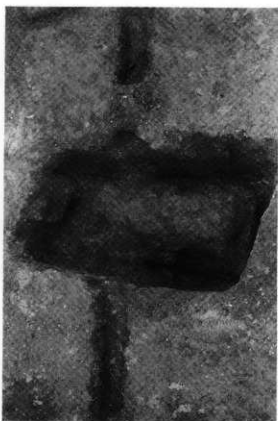
TSO・SK-16・床石検出状況・南から



TSO・SK-16完態状況・南から



TSO・SK-17・南から



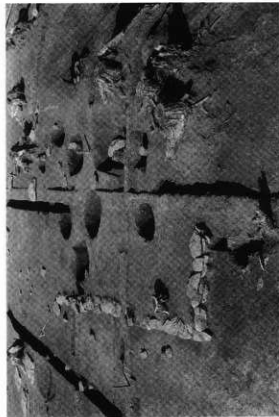
TSO・SK-17完態状況・北から



TSO・SK-18・南から



TSO・SX-1・南から



TSO・SX-1 遺構掘り下げ状況・南から



TSO・SX-1 表土除去後・南から



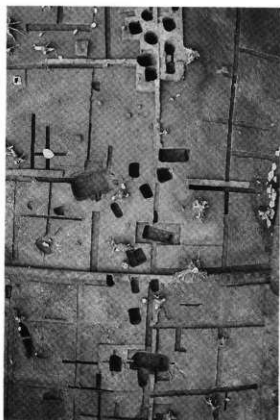
TSO・SX-1 石列・西から



TSO・SX-1土器出土状況・北から



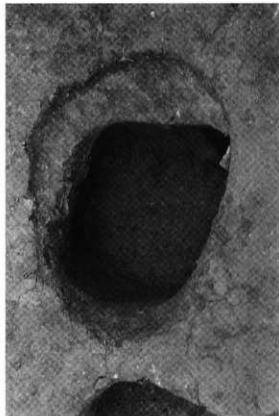
TSO・SK-19土層断面・東から



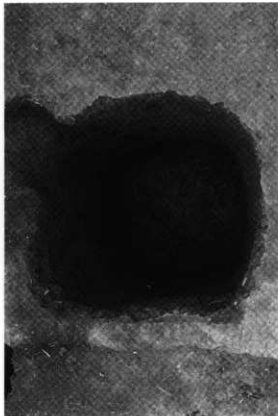
TSO・近世墓の配置・東から



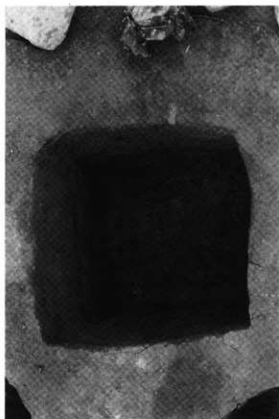
TSO・SK-19・南から



TSO・SK-21・西から



TSO・SK-22・北から



TSO・SK-20・北から



TSO・SK-22壁抜け状況・北から



TSO・SK-24塚出土状況・南から



TSO・SK-24・東から



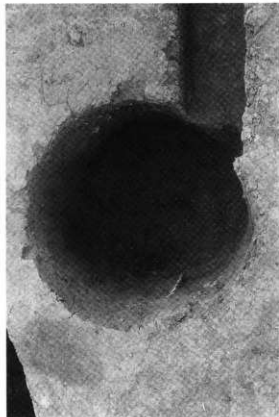
TSO・SK-23・北から



TSO・SK-24人骨出土状況・南から



TSO・SK-26・北から



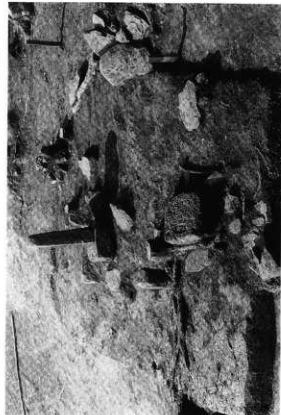
TSO・SK-27・東から



TSO・SK-25・西から



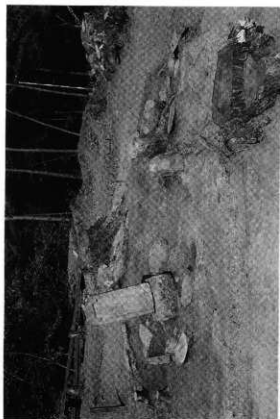
TSO・SK-27・人骨出土状況・西から



TSO・SK-28、29石塔・南から



TSO・SK-28石塔・西から



TSO・SK-28 (左)、29 (右) 石塔・西から



TSO・SK-28石塔平部銘文・西から



TSO・SK-28石塔・北から



TSO・SK-28石塔・東から



TSO・SK-28 (右)、29 (左) 石塔下層部検出状況・東から



TSO・SK-29石塔・東から



TSO・SK-28 (上)、29 (下) 墓塚検出状況・南から



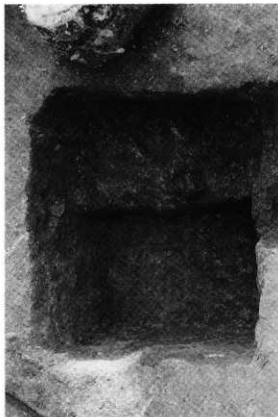
TSO・SK-28・西から



TSO・SK-29・南から



TSO・SK-30 塚検出状況・南から



TSO・SK-30 (左)、31 (右)・北から



TSO・SK-33・西から



TSO・SK-32人骨出土状況・東から



TSO・SK-32・東から



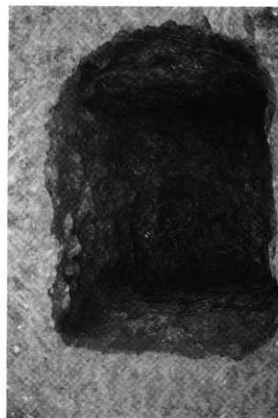
TSO・SK-34遺跡 (262) 出土状況・北から



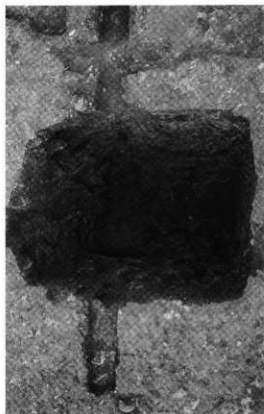
TSO・SK-34塚跡出土状況・南から



TSO・SK-36・西から



TSO・SK-37・西から



TSO・SK-38・南から



TS8・a、bブロック調査前・北東から



TS8・aブロック寄土層検出状況・西から



TS8・aブロック寄土層検出状況・東から



TS8・cプロック調査前・東から



TS8・SS-1・南東から



TS8・SS-2・南東から



TS8・SS-1ピット検出状況・北東から



TS8・SK-1・西から



TS8・SK-1、SD-2土層断面・南から



TS8・SK-2 (左)、3 (右)・西から



TS8・SD-2・南から



TS8・土塁状遺構・東から



TS8・土塁状遺構土層断面・北から



TS8・SS-7~10・北東から



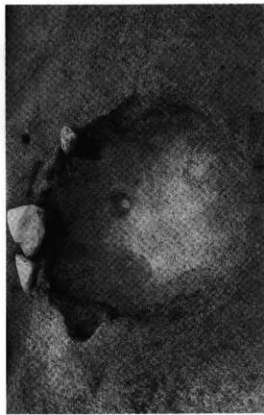
TS8・SE-1・西から



T S 8 ・ S E - 1 土層断面・北から



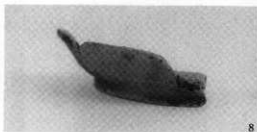
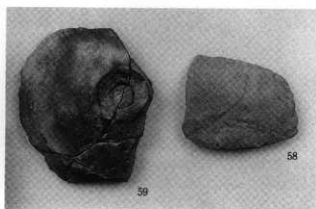
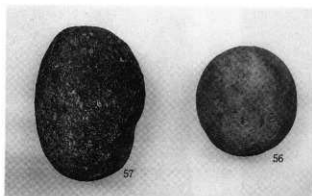
T S 8 ・ S E - 1 ・ 竹管 (366) 出土状況・北西から



T S 8 ・ S E - 2 ・ 北から

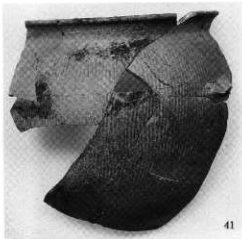
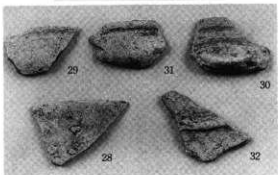
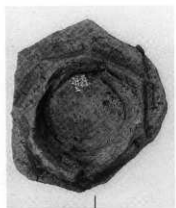


T S 8 ・ S S - 4 ~ 6 ・ 北から

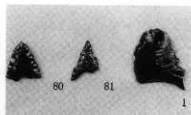
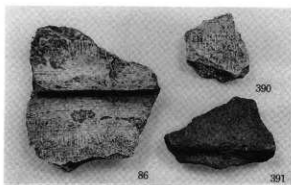


小町石橋ノ上遺跡出土遺物 1

SI-2・56, 57 SI-3・58, 59, 63 SS-1・2, 3, 5 SS-1周辺表採・8
 (56, 57-S=1/3, その他-S=1/2)



小町石橋ノ上遺跡出土遺物 2
 SD-11・27~32, 40~42 (27~32-S=1/2, 40~42-S=1/4)

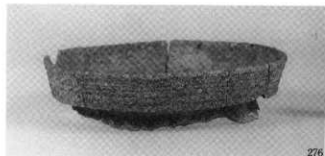


小町石橋ノ上遺跡出土遺物3

SD-11・83, 92, 95, 98 土器状遺構上層・86, 390, 391 SD-8・17, 18 SK-1・1 遺構外・80, 81
 (1, 80, 81-S=1/2, 18, 83-S=1/4, その他-S=1/3)



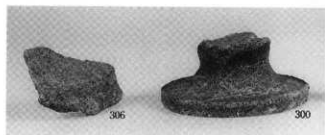
田住桶川遺跡出土遺物 1
遺標外・301~303 (S=1/2)



276



318

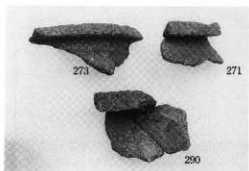


306

300



165



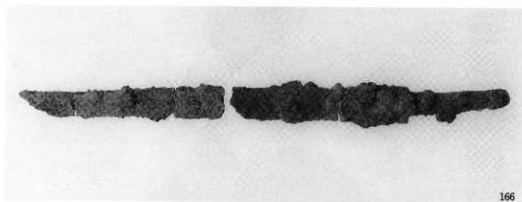
273

271

290

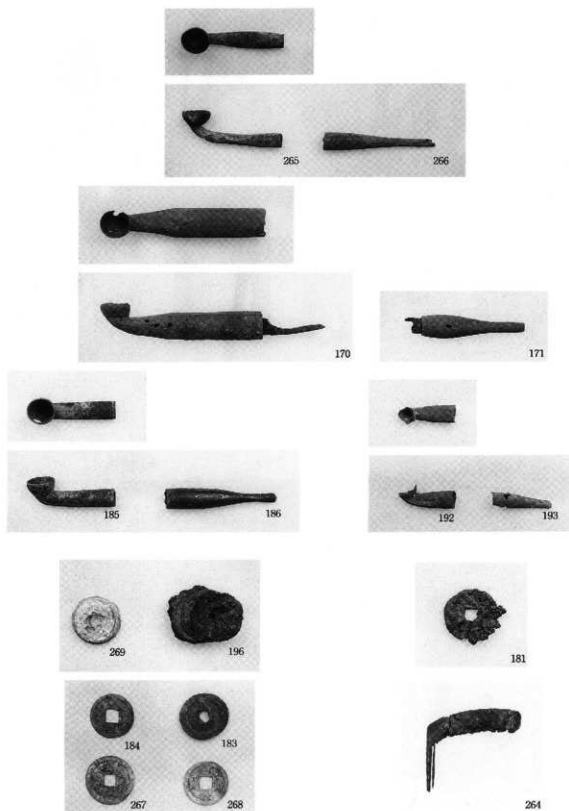


311



166

田住桶川遺跡出土遺物 2
SK-8・165 SK-16・166 遺構外・271, 273, 276, 290, 300, 306, 311, 318 (S=1/3)



田住桶川遺跡出土遺物 3

SK-19・170, 171 SK-23・181 SK-24・183 SK-25・184~186
 SK-27・192, 193, 196 SK-36・264~268 SK-38・269 (S=1/2)



187, 188

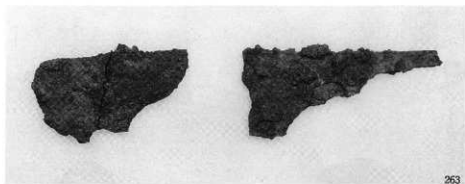


176, 177, 178

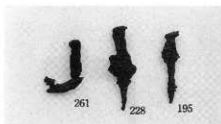


174, 175

189



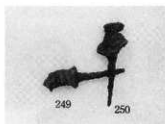
263



261

228

195

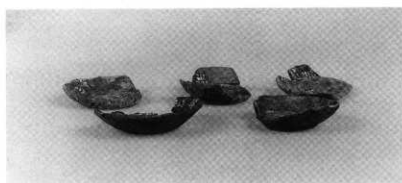
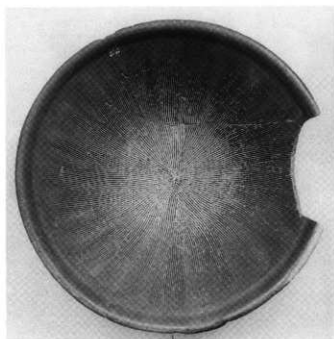


249

250

田住福川遺跡出土遺物 4

SK-19・174, 175 SK-23・176~178 SK-24・187, 188 SK-26・189
SK-27・195 SK-32・228, 249, 250, 261 SK-35・263 (S=1/2)



田住桶川遺跡出土遺物 5

SK-24・182 SK-34・262 SX-1・198, 217 下段はSX-1出土小皿
(182, 217, 198-S=1/2, 262-S=1/4)



100



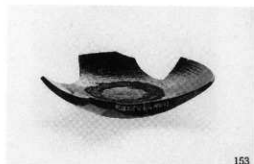
131



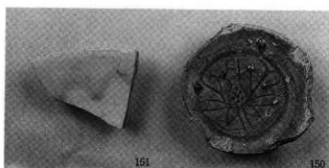
101



102



153



151

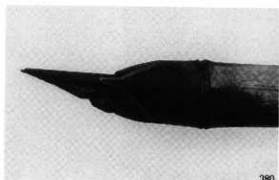
150



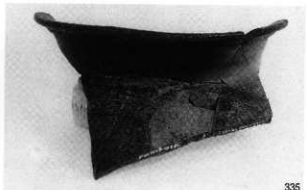
371



380



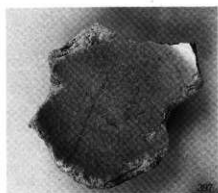
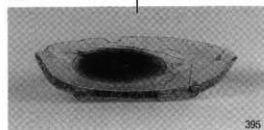
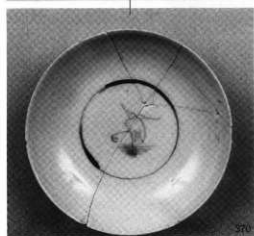
380



335

朝金第2遺跡出土遺物 田住第8遺跡出土遺物1

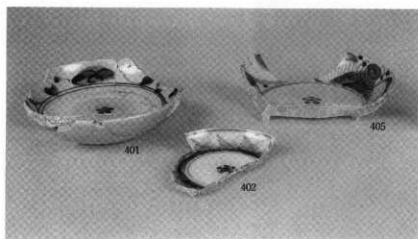
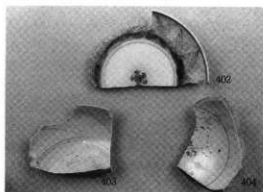
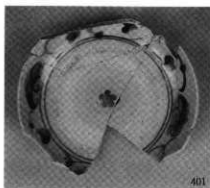
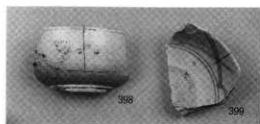
朝金第2遺跡遺物外・100~102, 131, 150, 151, 153 (S=1/2)
 田住第8遺跡SK-1・371 SE-1・380 遺物外・335 (371-S=1/2, 380, 335-S=1/3)



田住第8遺跡出土遺物 2

SS-2・370 道橋外・392~397 (S=1/2)

図版48



田住第 6 遺跡出土遺物 3
遺構外・398~405 (S=1/3)

鳥取県教育文化財団調査報告書52

県営西伯地区広域農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II

鳥取県西伯郡岸本町

小町石橋ノ上遺跡

鳥取県西伯郡会見町

朝金第2遺跡

田住桶川遺跡

田住第8遺跡

発行 1997年3月31日

発行者 財団法人 鳥取県教育文化財団

〒680 鳥取市東町1丁目271番地

電話 (0857) 26-8397

印刷 有限会社木子プリント社